

ケニア

概要：UNAIDSの2018年のデータによると、ケニアでは、140万人の15歳以上の大人がHIVに感染しており、女性の感染者数が男性より多い。2018年には46,000人（全年齢）が新たに感染した。

ケニアはアフリカの中でHIV感染率の高い国のひとつであることから、WFPでは1995年よりエイズ予防教育を実施してきた。ハンドウ中学・高校の生徒や教職員、PTAに「エイズ時代に生きる」のパワーポイントを中心として医学的知識、予防法、生活の仕方も指導するとともに、人格教育も行っている。

実施状況

【2017】

1月9～10日と2日間、ハンドウ中学・高校にてセミナーを実施。1日目は「エイズ時代に生きる」を講義し、3,4年生を中心に300人が参加。また45人のPTAには家族の価値、道德教育の重要性などをスワヒリ語で講義を行った。2日目は人格教育を実施し、300人の生徒が参加。セミナー終了後のアンケートで、講義の内容を真剣にとらえる生徒が多い中、エイズにかかったかもしれないと不安をもつ学生もいたことが分かった。



ハンドウ中学・高校でのセミナー

【2018】

9月24日、学校の食堂で全校生徒600人を対象に「エイズ時代に生きる」を講義。翌25日には人格教育を講義。2013年はマラクシ中学・高校の女生徒が妊娠したケースは16人だったが、2018年は1人だけとなり、エイズ予防教育・人格教育の成果を実感した。

カリブ海

トリニダード・トバゴ

概要：1996年よりエイズ予防教育を実施。英語版「エイズ時代に生きる」の教材を使って現地のテーマを加えながらパワーポイントでセミナーを開催。ニーズに応じて、道德教育、自己抑制教育、人格教育のセミナーも開催。教育の対象は、小学校高学年、中・高校生、各種専門学校、保護者、教育関係者、コミュニティの人々。

実施状況

【2017】

- 11月に首都ポート・オブ・スペインの小学校4校と中学校2校においてセミナーを開催。8歳から14歳までの児童・生徒397人と教師22人を対象に道德教育と自己抑制教育の講義と「エイズ時代に生きる」の講義を実施。
- 11月18日、首都ポート・オブ・スペインのオール・セイন্ツ教会ホールにて、エイズ予防教育講師養成とプログラム紹介のためのセミナーを開催。ドミニカ共和国より人格教育の講師を迎え、「人格教育の必要性と優先権」について講演をいただいた。WFPトリニダード・トバゴ会員8人と教育関係者を含むゲスト18人が参加した。

【2018】

- 4月19日、キューロップにあるジョン・ジョン・ユースクラブの10歳から18歳までのメンバー28人を対象に、道德教育のセミナーを開催。
- 4月25日、サングレ・グランデ地区のマンザニーラにあるマンザニーラ中学校の13歳から16歳までの38人の生徒と教師1人を対象に、「エイズ時代に生きる」のセミナーを開催。
- 11月5日、キューロップのファティマ・RC・スクールの7歳から8歳までの80人の児童と教師6人を対象に道德教育の授業を実施。



マラバル中学校での授業



ツナブナ AC 小学校での授業



校舎の壁の絵で将来の職業選択を指導



授業風景

アフリカ ケニア

学校名	ハンドウ中学校・高校
校舎建設完成年月	1997年10月より学校設備建設続行中
開校年月	1998年5月
教育内容	中学・高校レベルで4年間学ぶ。科目は一般教養科目（国語・化学・歴史・地理・数学・物理・生物）、商業、音楽、体育、農業技術、道徳（エイズ予防教育）。

概要

ルガリ地域マラクシ村が資金不足で建設を中断していた中学校を WFWP が引き継ぎ、1998 年に開校。

2003 年にケニア政府公認の公立学校となり、教師の半数は教育省・地方教育委員会から派遣されている。

ケニアでは 2008 年より中学校の無償化政策が推進され、就学率が上昇。しかし、授業料以外の教育経費負担は変わらず家計を圧迫し、政府からの学校への支援も滞りがちで、依然として運営支援は必要な状況。

PTA は自助自立の精神で自主的に資金を集め、学校の施設の拡大・整備を行っているが、不足分は WFWP が支援し、安定した学校運営と設備の充実に貢献している。

学業継続が困難な生徒に対し、里親制度で学費を支援している。

栄養事情がよくない貧困地域のため、昼食時に給食を提供し、生徒が学業に集中できるようにしている。

ルガリ地域の中ではかなり設備の整った科学実験室を持ち、周辺地域の保護者や生徒の人气が高い。

ラグビーやサッカーをはじめ、クラブ活動も活発に行われている。

進展状況

【2017】

- 1 月、派遣員入国時に校長・副校長と学校運営に関するミーティング、里子とのミーティングを実施。また文房具などを学校に寄贈した。
- 職員宿舎と女子寮の増設。
- 教室の外壁塗りを実施。

【2018】

- コンピューター室のパソコンを追加し 20 台となる。地方の学校にコンピューターがあるのは珍しく、学校から遠く離れた地方から来ている生徒もいる。
- 図書室の蔵書を追加。
- 女子寮とキッチン排水システム改善。
- 井戸の増設。
- フェンスの強化。
- 12 教室のうち 6 教室の床の修繕を実施。
- 9 月、派遣員入国時に校長・副校長、PTA 会長・役員、WFWP ケニアメンバーとミーティングを実施。文房具などを学校に寄贈。

生徒数	男子	女子	合計
2017	345	264	609
2018	324	282	606



日本からの支援物資の寄贈



ガーナ

【対象】 ガ地区アマサラム地域・アクラ市・アクラ市郊外の小中高生
 【支援期間・金額】 学費・制服・くつ・文房具の費用として毎年 12,000 円を小中学生に支援。授業料として 50,000 円を高校生へ支援。1 年ごとに見直し。
 【開始年度】 2002 年 1 月
 【里子数】 (2017) 54 (2018) 51
 【里親数】 (2017) 55 (2018) 55



ギニア・ビサウ

【対象】 ソナック小学校の児童、ソナック中学校の生徒
 【支援期間・金額】 毎月 3,000 円または 1,000 円
 【開始年度】 2001 年 1 月
 【里子数】 (2017) 43 (2018) 41
 【里親数】 (2017) 43 (2018) 41



ケニア

【対象】 ハンドウ中学校・高校の生徒
 【支援期間・金額】 1 年間 15,000 円。1 年ごと更新（希望があれば継続）。
 【開始年度】 1998 年 5 月
 【里子数】 (2017) 40 (2018) 40
 【里親数】 (2017) 19 (2018) 18



赤道ギニア

【対象】 モトコ・シロマ幼稚園・小学校とピラール・モモ幼稚園・小学校他数校に通う 5～15 歳（幼稚園～小学 6 年生）の生徒
 【支援期間・金額】 1 年間の授業料（学用品含）10,000 円の支援
 【開始年度】 2002 年 10 月
 【里子数】 (2017) 100 (2018) 107
 【里親数】 (2017) 95 (2018) 92



マラウイ

【対象】 優秀だが経済的な理由で学業継続が困難なムズズ大学保健科学部の看護学生
 【支援期間・金額】 年間の学費 62,500 円を支援
 【開始年度】 2016 年 3 月
 【里子数】 (2017) 6 (2018) 8
 【里親数】 (2017) 6 (2018) 8



モーリタニア

【対象】 5～15 歳（中学生）の孤児もしくは貧困家庭の子ども
 【支援期間・金額】 毎月里親会員 3,000 円・サポート会員 1,000 円。この会費の 8 割が養育費となる。コレージュ（中学 3 年）を卒業するまで支援。
 【開始年度】 1997 年 10 月
 【里子数】 (2017) 13 (2018) 14
 【里親数】 (2017) 6 (2018) 7



ルワンダ

【対象】 ニューホープ技術専門学校に通う孤児・貧困者
 【支援期間・金額】 1 年間 30,000 円
 【開始年度】 1999 年 1 月
 【里子数】 (2017) 57 (2018) 53
 【里親数】 (2017) 56 (2018) 60

その他実施国：インド、カメルーン、スリランカ、ホンジュラス